

# ふれあい

2024

2

No.443

牛久愛和総合病院 広報誌



## かかりつけ医をもちましょう

医事情報部 次長 松本 壮司



昨年8月から当院は「紹介受診重点医療機関」となりました。あまり、聞きなれない言葉か

と思います。その名の通り、かかりつけ医などから紹介状を持って受診いただくことに重点をおいた医療機関です。また、外来機能の明確化・連携を強化し、患者さんの流れの円滑化を図るために都道府県ごとに決定される医療機関です。

患者さんがまず地域の「かかりつけ医療機能を担う医療機関（ご自宅近くのクリニック等）」を受診し、必要に応じて紹介を受けて紹介受診重点医療機関を受診する、その後状態が落ち着いたら逆紹介を受けて地域に戻る、といった受診の流れを明確にすることを目的としています。みなさんは病院の診察室で自分の病気のことや症状をどこまで正確に説明できますか？診察室に入ったとたんに緊張して、い

つから調子が悪かったのかが言えなくなつた、本当は痛いんだけど今は大丈夫です、なんて答えてしまつて自分のことなのになんて説明できなかったなんてことはないでしょうか。そのせいでたくさん検査や入院をするなんてこともあるかもしれません。

そんな診察をスムーズに、より安全にしてくれるのが地域の先生方からの「紹介状」です。紹介状は診療情報提供書というのが正式名称で、具体的な

中身は患者さんの住所や生年月日、現在の病気や症状、アレルギー、飲んでいる薬の名前、既往歴など様々です。なんだこれだけかと思うかもしれませんが実はこういった情報があることで病院側では患者さんの病状の経過を迅速に把握し、必要のない検査などの無駄を省き、本当に必要な検査、処置をスムーズに行えるようにしてくれます。また、病院での治療により症状が安定した場合には地域の先生方のところに戻る際も同じように、病院ではどんな検査をして、どんな治療をしたのかなど紹介状をお渡しさせていただきま

す。こういった患者さんを中心として地域のかかりつけの先生と当院の医師が互いに連携し、共同で治療を行っていくことを「2人主治医制」とも言われています。今の時代、地域のかかりつけの先生が患者さん一人ひとりの専門医となり、普段の健康状態の把握や治療経過の記録、生活指導などを行つてくれます。専門的な検査・治療が必要となった場合にはその先生が紹介状を書いてくれます。しつこいようですが、普段は定期的にかかりつけの先生に、より専門的な検査や治療が必要だと判断されたら紹介状を持って病院へ。これが今の標準的な医療の在り方となっています。かかりつけ医をお持ちでないという方もいらっしゃるかもしれません。その場合は当院の医師や地域医療連携室職員にご相談ください。病気や目的に応じ、ご自宅近くの先生をご紹介させていただきます。かかりつけの先生と当院の医師がお互いの役割を果たすことで患者さんがより一層地域で安心して生活できると考えております。

## 情報セキュリティについて

情報システム管理室 係長 皆葉 俊一

昨今、日本の医療機関に対してランサムウェア（身代金要求型ウイルス）等を用いたサイバー攻撃事例が連続して発生しており、院内システムの停止から長期間の診療停止に陥ったケースが後を絶ちません。それに対して厚生労働省は2023年5月に「医療情報システムの安全管理ガイドライン（第6・0版）」を策定し、医療機関が取るべきサイバー攻撃対策を明確に打ち出しているところです。

攻撃を受けた医療機関は通常診療の停止を余儀なくされ、患者さんへの多大なご迷惑をかけてしまうことはもちろん、病院の運営および経営に重大なダメージを受けることとなります。

しかし一方で、多くの医療機関では本格的にサイバーセキュリティ対策に取り組めていないのが現状です。厚生労働省の調査によると、半数以上の医療機関で関連事業者も含めたネットワークの脆弱性対策や安全性の高いデータバックアップが実施できていないという結果が出ています。サイバー攻撃はどの医療機関でも起こりうる事象であり、各医療機関で対策を進めることが急務です。

当院では、患者さんのプライバシーと医療情報の機密性を守るため、アクセス制御を徹底し、権限のない者が医療情報にアクセスできないようにしており、データは暗号化され外部からの不正アクセスに対して情報を保護しています。

また、医療スタッフにはセキュリティ教育を行い、情報漏洩のリスクを最小限に抑えています。

緊急時には、対応策や災害復旧計画も策定しており、医療サービスの中断を最小限に抑えるよう体制を整備しています。

総じて、包括的で適切なセキュリティ対策を講じること、患者さんの信頼性を確保し、安全かつ安心な医療環境を提供できるようスタッフ一同取り組んでおります。

## DMカフェ

糖尿病・代謝内科

岩崎 祐子



「冬になると血糖値が高くなる。」と思われる方はいませんか？血糖値は、季節により変動すると言われています。血糖値が上がりがやすいのは冬で、逆に低くなるのは夏です。冬は寒くて運動不足になりやすく、さらに、クリスマス、忘年会、お正月、新年会など行事が多く暴飲暴食となりやすいです。生活習慣の変化が冬の血糖値が上がりやすい主な原因です。

冬の間には生活習慣を乱さず、血糖値を悪くしないことはとても大切です。しかし乱れてしまった食習慣、運動不足、増えてしまった体重…これらを何とか戻したいと思われる方も多いことでしょう。まずは基本に立ち返り、3食バランスよく食べる、間食を控える、こまめに動く、体重を毎日測定するなど、できるところから前向きに取り組んでみてはいかがでしょうか。

## 部署紹介

### B5階病棟

副師長 峯村 優子

B5階病棟は、長期間にわたり治療や看護を必要とする人が入られている病棟です。高齢者が多く、重度の意識障害や神経難病を患う人、病気になるすぐの治療を経て病状が安定した人が入院生活を送っています。療養後は、自宅や施設に退院されることが多いですが、進行性の病気のため、お亡くなりになり自宅へ帰られる人もいます。

看護師20名、看護補助者2名のスタッフが毎日交代で24時間、最大46名の患者様の看護をしています。食事や整容、排泄、清潔を保つためのケア、人工呼吸器を使う方のケアを行い、医師やリハビリ、医療ソーシャルワーカーなどの多職種と協働し、退院に向けての支援も行います。

病院は、自宅や施設とは違い、治療の場であり、患者様にとっては落ち着かない環境です。長期療養されている患者様からは、「早く帰りたい」「娘に電話してちょうだい」など離れたご家族を心配する声が聞かれることがあります。自宅や施設と同様の環境を作ることには難しいですが、障がいを持つ人や高齢者が生活しやすい環境づくり、ご家族との時間を作るなど工夫して長期療養を支援していきます。入院中のB5病棟が安心できる場所と感じていただけることを目指して、スタッフ一同協力し、看護に努めてまいります。

# 春秋園だより



新年を迎え、早、二ヶ月が経ちました。立春が過ぎ、暦の上では春となりましたが、まだまだ寒い日が続いております。春の暖かさが待ち遠しい時期になりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

今回は、年末年始の通所リハビリでの様子を紹介していきます。十二月に入り、クリスマスツリーや手作業レクリエーションで作成した、クリスマスの貼り絵などを飾り付け、施設ではクリスマスムード一色となりました。

行事でクリスマス会を実施しました。職員がサンタやトナカイの衣装に着替え、利用者様にはサンタの帽子をかぶつ



ていただきました。職員余興や合唱、ギター演奏のボランティアなどでクリスマス会を楽しめました。

年が明け、

地震の事や孫・ひ孫の話、お出かけした話など、いろいろな会話が飛び交っていました。

通所リハビリでもお正月の飾り付けをしました。レクリエーションで、巨大な宝船の貼り絵や辰の置物を利用者様に作成していただきました。完成品をみて、「立派な物が出来上がった」「縁起がいい」と皆様喜ばれていました。



# 謹賀新年

現在は、手作業レクリエーションで節分に合わせ、鬼の貼り絵を作成しております。季節に合う作品を今後も作成していきます、利用者様に楽しんでいただけるよう努めていきます。

引き続き、コロナやインフルエンザなどの感染症対策を徹底し、職員一同皆様の生活のサポートをしていきます。

(春秋園通所リハビリ一回)

# Dr趣味リレー

研修医 山田 真矢

大学から始めたカメラやこちらに就職してからハマっている料理など、趣味はいろいろありますが、一番人生を捧げているのはゲームです。ポケモンやどうぶつ森、ドラゴンクエストといった定番はもちろん、小学生にも人気のマイクラフトやスマホゲームの第五人格など節操なく手を出しては、時間を無為に消費してきました。

とりわけ私が愛してやまないのは「工場を作る」ゲームです。資源の枯渇や敵の襲撃、環境汚染など様々な問題に対処しながら、物流を管理し、自由に工場をレイアウトします。始めは毎分数十のネジを作っていた小さな工場が、気が付けば何万ものネジを消費してロケットを組み立てるようになる達成感が最大の魅力です。「魔王を倒す」「日本を統一する」といった目標があるわけではなく、コツコツと工場を広げるだけですが、その分終わりがありません。ニッチなジャンルですが、もし興味があれば「factory」か「satisfactory」で検索してみてください。

# 入職者



1/1付入職 内科 本めぐみ 松本

- ①担当 ②専門とその紹介 ③出身大学
- ④趣味 ⑤生年月日 ⑥血液型 ⑦星座

②筑波大学の内科専攻医1年目です。専攻は消化器内科です。内科ローテーションで3ヶ月間代謝内科でお世話になります。よろしくお願ひします。

- ③山形大学 ④F1観戦
- ⑤平成9年3月21日 26歳

1月1日付

## ■保育課

保育補助 小林 和子

先輩の方々を見習って、誠心誠意務めさせていただきます。

1月16日付

## ■春秋園

## ■訪問看護ステーション

看護部 奥田 久美子

住み慣れた自宅で利用者さん・家族に寄り添い看護を提供し、日々楽しく業務に取り組みたいと思います。

# 骨盤底筋体操教室

理学療法士 内野 未月

咳やくしゃみをしたら尿が漏れる、冷たい風や水に触れると急にトイレに行きたくなる、子供を産んでから尿漏れが続いている、前立腺を摘出してから尿漏れが治らない。

このような悩みを抱えている方は尿の蛇口である骨盤底筋が弱っていることが原因かもしれません。どうかにかしたいけど誰に相談して良いかわからない…。そのような方々へ。ぜひリハビリセンターで行っている骨盤底筋体操教室へいらっしやってみませんか？その方に合わせた専用のメニューを女性理学療法士が作成し、個別指導させて頂きます。ご興味のある方は一度泌尿器科を受診して頂き、骨盤底筋体操教室へ紹介してもらおうことをご参加可能です。一同お待ちしておりますので、ぜひお気軽に足をお運びください。



## 編集だより

2月4日「立春」暦ではこれから梅が咲き始め、徐々に春の兆しがみられ始める頃ですが、今年は1月中旬に病院の周りの梅が咲き始めました。鳥も鳴いています。忙しくて、下ばかり見がちですが、ちょっと上を見てください。春が来ていますよ。(S・C)

## 病院理念

我々は医療全般は基より、3つの柱「救急医療」「予防医療」「高齢者医療」を通じて地域住民の皆様へ最高の医療・福祉を提供すると共に、職員一同自己研鑽に励みます。

## 病院概要

病床数 489床 (一般391床 医療療養型55床 地域包括ケア43床)

## 施設

敷地 59,449.60㎡ 駐車場 1151台



## 診療科目

### 【一般外来】

内科、消化器内科、循環器内科、心臓血管外科、血液内科、腎臓内科、脳神経内科、呼吸器内科、糖尿病・代謝内科、リウマチ・膠原病内科、小児科、眼科、泌尿器科、皮膚科、整形外科、脳神経外科、形成外科、救急科、外科、乳腺外科、消化器外科、耳鼻咽喉科、産婦人科、歯科口腔外科、甲状腺・内分泌外科、血管内治療科

### 【専門外来】

内科 (禁煙外来)  
整形外科 (股関節、脊椎、スポーツ、肩関節、膝関節)  
小児科 (小児循環器、小児心理、小児免疫)  
皮膚科 (レーザー外来)  
外科 (下肢静脈瘤外来)  
ストーマ外来  
そけいヘルニア専門外来  
透析外来  
内視鏡検査  
検診検査 (乳がん検診)

日本医療機能評価機構認定病院  
医療法人社団 常仁会

救急 24時間

# 牛久愛和総合病院

〒300-1296 茨城県牛久市猪子町896番地  
Tel 029-873-3111 Fax 029-874-1031  
ホームページ <http://www.jojinkai.com>

## 【関連施設】

総合健診センター Tel 029-873-4334  
健康増進施設 スポーツリラックス Tel 029-874-8791  
人工透析センター  
読影センター  
地域リハ・ステーション  
介護老人保健施設 春秋園 Tel 029-870-3100  
ひたち野ステーションクリニック Tel 029-896-6200  
特別養護老人ホーム グランヴィラ牛久 Tel 029-817-5111

